

ステージ3ってこんな感じ!!

「担当教科等と他教科等の資質・能力のつながり」の進め方 事例

私は〇〇中学校で国語科を担当しています。今年度、中堅研を受講します。「教科等横断を意識して、国語科の資質・能力を育成しましょう。」と言われたけど、どうしたらいいのかなあ？私の席に近くには社会科と数学科の先生がいて、よく生徒のことや授業の内容について話しています。学習のまとめ方や発表の仕方について話題にしたこともありました。それから本校では、ふるさと学習を実践するため、「地域」をテーマにした「総合的な学習の時間」（以下、「総合」）を学年部ですすめています。「総合」と教科等横断って関係あるのかなあ？



あなたはステージ3にあてはまりますね。以下のステップで進めてみては？

の中はステップを、・印はその具体的な姿を示しています。ここでは「総合」を軸に教科等横断する事例を挙げてみましたので参考にしてみましょう。



P

① 担当教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、担当教科等で育成する資質・能力について確認する。



- ・先生方と話したり、『学習指導要領解説 国語編』や教科書を読んだりしながら、国語科では生徒にどんな力を付けたいかを考える。
- ・年間指導計画等を見て、年間の単元の流れや各単元でねらうことについて見通しをもつ。

② 他教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、他教科等で育成する資質・能力について確認する。



- ・他教科等の先生方と話したり、授業の様子を見たりしながら、他教科等の付けたい力や年間の単元（題材）の流れ、各単元（題材）でどのような学習をしているのかを知る。

③ 他教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、教科等間の指導内容相互の関連や資質・能力（身に付けた力）の活用について考える。



- ・「総合」で、国語科で学んだことを活用できる場所は？国語科の授業で、「総合」で学んだことを活用できる場所は？を考える。
- ・「総合」の思考ツールや学び方（グループ学習・学校図書館活用等）を国語科で活用できないか？を考える。
- ・学年部で「総合」と担当教科等の学習（付けたい力）とつなげられることを話し合う。



（「グループ発表は、国語科でプレゼンの学習があるから一緒にできそう。」「社会科での地域の様子などに関わる部分がある。」「この調査の集計は数学で学んだことが使える。」等）

④ 他教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、いつ、どの単元・題材で、どのような指導で取り組むか考える。



- ・「総合」と国語科の年間指導計画を並べ、それぞれの学習で活用できそうな部分を探して、どのような授業にしていこうかと単元構成や授業の内容を考える。

D

⑤ 他教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、教科等横断を意識して授業を行う。
・他教科等で身に付けた力を担当教科等で活用する ・担当教科等で身に付けた力を他教科等で活用できるようにする



- ・授業を実践する。様々な教科等で学んだことを「総合」で活用できるような場面を設定し、生徒自ら教科等横断的に活動できるよう手立てや声かけを考える。
- ・CやAがしやすいように、生徒の考えの変容が分かるものを利用したり、複数の教員で授業を見合ったりする。

C

⑥ 他教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、生徒の姿から資質・能力の活用について成果や課題を振り返る。



- ・「総合」を先生方と振り返るときに、教科等横断してみたことへの課題や成果を各担当教科等の視点で話し合う。(担当教科等の資質・能力がどう使われていたか、活用しながら生徒は教科等の見方・考え方を深めていたか、そうなった要因は何か、今後に生かせること、改善すべきことは何か等)

A



⑦ 他教科等の先生と連携して、年間指導計画や単元配列表を操作しながら、事後や次年度に生かせるように改善案をつくり、実施する。

- ・「総合」や国語科の年間指導計画等に改善について加筆修正し、事後や次年度に生かせるようにする。

Point!

他にも、このようなことを意識してみてもはどうでしょう。



- ☆「総合的な学習の時間」は教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習です。「総合的な学習の時間」と各教科等で育成する資質・能力との関わりを意識すると、教科等横断的な学びが進めやすいです。「この活動は、担当教科等で育成する資質・能力とどうつながっているのか？」を意識してみましょう。
- ☆各教科等で言語活動の充実を図ることが求められていますが、特に、言葉を直接の学習対象とする国語科の役割は大きいです。従って、言語活動という視点から見れば、国語科と他教科等の学習はつながりやすいです。
- ☆一人で進めるよりも複数の教員で話し合いながら進めると、各教科等の付けたい力や学び方の関連が共有されるとともに明確になります。振り返りも複数の教員ですると、多様な視点からより多くの課題の発見や改善方法も見つかり、事後や次年度につながります。
- ☆年間指導計画等が目の前にあると、書き込んだり、加筆修正したりできます。複数教科等を一覧できるようにしてみると、各教科等間で共通する学習や関連できる学習が見つかります。しかし、あくまで関連付けや活用できる力等意識することが大事ですから、単元配列を入れ替えなければならないことはありません。
- ☆「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」について、複数の教員で話し合うと、各教科等間で共通する学習や関連できる学習が見つかります。(『小学校学習指導要領 解説 総則編』付録6を参照)
- ☆「学習の基盤となる資質・能力(言語能力・情報活用能力・問題発見・活用能力等)」について、複数の教員で話し合うと、各教科等間で共通する学習や関連できる学習が見つかります。